

1. 評価結果概要表

作成日 平成22年3月18日

【評価実施概要】

事業所番号	0972300578		
法人名	社会福祉法人栃の木会		
事業所名	社会福祉法人栃の木会 認知症老人グループホームうらら		
所在地	栃木県下都賀郡壬生町大字北小林812-1 (電話) 0282-86-8600		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成22年1月25日	評価確定日	平成22年3月18日

【情報提供票より】(平成21年11月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年4月6日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	7 人	常勤6人, 非常勤1人, 常勤換算7人	
	9 人	常勤8人, 非常勤1人, 常勤換算8.5人	
	8 人	常勤8人, 常勤換算8人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 1階建ての1階部分
------	-----------------

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	・レクリエーション費—実費 ・おむつ代—パッドタイプ 1枚 30円 フラットタイプ 1枚 50円 パンツタイプ 1枚153円 はくパンツ 1枚180円 ・光熱水費—20,000円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	—	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(平成21年11月1日現在)

利用者人数	27 名	男性	名	女性	27 名
要介護1	5 名	要介護2	7 名		
要介護3	11 名	要介護4	4 名		
要介護5	名	要支援2	名		
年齢	平均 83.7 歳	最低	75 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	独協医科大学病院、グリーンクリニック
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは壬生町北部の田園地帯がひろがる自然豊かな環境に位置している。独立した棟からなる3ユニットのグループホームであり、堇(すみれ)・茜(あかね)・翠(みどり)という趣のある名前と各棟のイメージカラーが設けられている。全職員が入居者への接遇に対する姿勢を身につけており、おもてなしの心を持って生活の支援に取り組んでいる。ボランティアの受け入れにも積極的であり、入居者個々の思いを尊重し、自立支援と意欲向上に向けた生活環境作りにも努めている。入居者と職員は日々喜怒哀楽を共有し、双方が「ありがとう」という言葉に支えられており、職員からは、自分達の「和」が入居者への想いに反映されるという言葉や、「将来、自分自身が入りたいと思っているグループホームです」との言葉が聞かれる等、職員が職場に自信と誇りを持ち、支援に取り組んでいるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	運営者及び管理者は評価の意義や狙いを理解しており、自己評価をととして日々の支援の振り返りの機会と位置づけている。評価結果については、会議で協議する等、改善に向けた取り組みに活かしている。
①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は全職員で取り組み、カンファレンスで話し合い、まとめあげている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	会議では、入居者のホームでの暮らしぶりや支援状況等の報告を行っている他、出席者からも意見や助言が活発に出されており、そこから得た情報等を積極的にサービスの向上に活かしている。会議の議事録は全職員に周知され、認識の共有が図られている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	ホームでは、家族から何でも遠慮なく意見や要望等を言ってもらえる様な関係作りを心がけており、家族の来所時や家族懇談会等の場において出された要望等は改善に向けた取り組みに活かしている。重要事項説明書の苦情受付窓口は管理者と町担当部署、国民健康保険団体連合会と運営適正化委員会が明記されており、苦情や意見等を外部に表す機会も設けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホーム周辺には住宅は少ないが、地域の幼稚園児や小学生との交流、ボランティアの受入も積極的に取り組んでいる。また、自治会には法人として加入しており、地域の一員として関係作りにも努めている。ホームの周知にも力を入れており、ホームの広報誌を地域の医療機関に置いてもらっている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「敬うところと優しいところ」をモットーに、信頼される施設を目指すという法人の理念の下、各棟毎に入居者と共に理念を作りあげている。「住み慣れた地域や家庭的な雰囲気の中で、個々の尊厳と人格を尊重し、その人らしい生き方を支援して、思いやりや感謝の心を持ち、温かな笑顔で生活できる」ことを目指している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は事務室内に掲示し、朝の申し送り時の唱和により理念の共有に努めている。また、各棟の理念はホールに掲示して入居者や家族等への周知にも努めている。職員の理念に対する意識は高く、実践に向けた取り組みに活かしている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホーム周辺には住宅は少ないが、地域の幼稚園児や小学生との交流、ボランティアも積極的に受け入れ、地域との交流に取り組んでいる。また、自治会には法人として加入しており、地域の一員としての関係作りに努めている。ホームの周知にも力を入れており、ホームの広報誌を地域の医療機関に置いてもらっている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者及び管理者は評価の意義や狙いを理解しており、自己評価をとおして日々の支援の振り返りの機会と位置づけている。評価結果については、会議で協議する等、改善に向けた取り組みに活かしている。今回の自己評価は全職員で取り組み、カンファレンスで話し合い、まとめあげている。		

認知症老人グループホームうらら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、入居者のホームでの暮らしぶりや支援状況等の報告を行っている他、出席者からも意見や助言が活発に出されており、そこから得た情報等を積極的にサービスの向上に活かしている。会議の議事録は全職員に周知され、認識の共有が図られている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	町職員は運営推進会議やホームの行事に参加しており、緊密な情報交換が行われている。また、町からの依頼により、ホーム職員が認知症についての研修会の講師を務めることもあり、町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族への入居者のホームでの暮らしぶりや健康状態についての報告は、面会時や電話で行っている他、毎月発行しているA6サイズの連絡便り等を用いて報告をしている。金銭管理状況については定期的に家族に預かり金台帳の写しを送付し、確認をしてもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームでは、家族から何でも遠慮なく意見や要望等と言ってもらえる様な関係作りを心がけており、家族の来所時や家族懇談会等の場において出された要望等は改善に向けた取り組みに活かしている。重要事項説明書の苦情受付窓口は管理者と町担当部署、国民健康保険団体連合会と運営適正化委員会が明記されており、苦情や意見等を外部に表す機会も設けている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は馴染みの職員による継続的な支援の必要性について理解しており、職員の異動は最小限に留めるようにしている。異動がある場合には、紹介や引継ぎを徹底し、入居者にダメージが出ないようにしている。離職者も少ない状況にある。		

認知症老人グループホームうらら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人の育成には、新人用マニュアルに沿って対応するとともに、先輩職員が積極的に新人教育に係わる等、現場を通しての教育に力を入れている。内部研修は毎月行われている他、棟間研修も鋭意行われており、職員教育の重要性を認識し、人材育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、同法人内のグループホーム職員との交流が主になっているが、各種の実習や研修のため来所した他事業所職員との交流にも努めている。また、「うらら新聞」を持参してデイサービス等の他事業所を訪問するなど、異業種間での情報交換も行っている。	○	同法人のグループホーム間だけの交流に留まらず、近隣他法人事業所との関係づくりに努め、情報交換や相互訪問等をおして、さらに質の向上を図る取り組みに期待したい。
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には、職員の家庭訪問や本人や家族にホームに来所してもらい、食事やレクリエーション等の日常生活に参加してもらうなどの「一日体験」を取り入れており、ホームでの暮らしぶりや雰囲気を確認してもらっている。入居後は、本人が早くホームに馴染めるよう、家族から生活歴や習慣を確認しながら支援にあたっている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事の準備や後片付け、部屋の清掃等、その時々入居者の気持ちを配慮しながら無理のない範囲で、職員の声かけにより一緒に行っている。また、花壇の手入れ、障子貼り、草むしり等、入居者の個性や力を引き出しながら、職員と共に支え合う関係を築いている。作業に参加できない入居者についても職員が寄り添い、喜怒哀楽を共にしながらの関係作りに努めている。		

認知症老人グループホームうらら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	フェイスシートを家族に記入してもらおう等、家族の協力のもとに入居者一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。ホームだけの対応では不足しがちな事例（趣味活動のさらなる助長、散歩不足、墓参り等）への対応は、家族の協力を得ながら積極的な支援に努めている。誕生日には入居者本人の「今望むこと」を叶える支援等も検討している。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画  本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	入居者本人や家族からの要望を第一のニーズとして介護計画に反映すると共に担当者制を導入して、日々の支援から入居者の残存機能の維持や、「日々の証」のための介護計画の作成に取り組んでいる。全職員が課題を共有してケアにあたるように介護計画を熟知することを目指している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し  介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回のモニタリングで入居者や家族の意向を確認し、月1回のサービス担当者会議で必要に応じて介護計画の見直しを行っている。日常の細かい変化を見逃さず、すばやく対応することを心がけており、「ヒヤリハット」の事例においても各棟で連携できるメリットを活かした支援を強化している。転倒事故等の入居者の状態に急な変化がおきた時は、直ちにケア会議を開催し、介護計画を見直すなど、柔軟且つ迅速に対応している。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ホームの敷地内には同法人の医療・福祉施設があり、医療面や夜間の緊急時等での連携や支援体制が構築されており、入居者の安全・安心に繋がっている。また、通院介助や薬の受け取り、墓参りや買い物等、入居者の時々々の状況や希望に応じた柔軟な支援に努めている。		

認知症老人グループホームうらら


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援  本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者と家族の希望する医療機関での受診を心がけている。看護師が日常的に相談に応じており、入居者の状態に変化があった時には必要に応じて主治医への報告書を作成している。また、系列法人の大学病院との提携体制もあり、情報交換を行いながら適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有  重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に本人及び家族へ、ホームではターミナルケアを行っていない事や、医療行為が必要になった場合にはホームでは対応が出来ない事を説明している。重度化した場合には、家族への連絡を密にすると共に、主治医から今後の方針についての指示を仰ぐ等、方針の共有と相互理解に努めている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底  一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇改善委員会を設けており、言葉遣いや支援方法、守秘義務について十分な話し合いを行い、プライバシーの保護に関しても遺漏の無いように努めている。また、月毎に接遇目標を決め、朝礼時に唱和することにより職員の意識向上も図っている。個人情報等の書類は、事務室に外部から見えないように鍵をかけて保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や入浴等の時間は決めているが、可能な限り入居者一人ひとりの日々の状態や希望に合わせた支援を心がけている。就寝前の足浴や温タオルでの清拭等、その都度、柔軟な対応をしている。他、クラブ活動や行事への参加等も無理強いくことなく、本人の希望を優先し対応している。		

認知症老人グループホームうらら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の状態や希望に沿った季節感のある献立を取り入れている。入居者は職員と共に食事の準備や後片付けを行う等、一人ひとりの能力を活かす取り組みを行っている。また、3棟の協力によるバラエティー豊かな行事食を楽しんだり、園芸活動で収穫された野菜を使った料理を楽しむ等、常に食事が楽しいものとなるよう努めている。	○	入居者の食事介助や職員の休憩時間等の問題もあると思われるが、グループホームの家庭的な雰囲気を活かすためには、職員が常に入居者と共に会話を楽しみながら同じものを食べることが出来るよう検討していくことを期待したい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援  曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴する人や夜間時に入浴する人、眠れない時の足浴等、入居者の習慣や希望に合わせた入浴支援がなされている。ゆず湯や菖蒲湯、バラ風呂など、季節感を取り入れた入浴が楽しめるような配慮もしている。また、入浴時間は職員との会話を楽しむ貴重な時間としても活用している。		
<b>(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援  張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味・趣向を活かして、植物の手入れや家事の手伝い等を依頼している。また、絵画や裁縫、パズル等、本人の楽しみごとの支援にも努めている他、クラブ活動等へも参加を呼びかけ、入居者の活力を引き出す働きかけを行っている。天候に応じて散歩や外食、お茶会等により、日々の暮らしの中の気晴らしの支援も行っている。		
25	61	○日常的な外出支援  事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	恵まれた周辺環境の中にあり、毎日のように戸外に出る機会を作り、気分転換や五感刺激を得られる支援をしている。職員と1対1での散歩や買い物への支援も行っている。また、外食や周辺の公園等への外出も行っており、入居者が生き生きと過ごせるよう工夫をしている。		
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践  運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りにより、安全確保に努め、施錠しないケアの実践に取り組んでいる。ベランダからの出入りも自由なため、入居者がユニット間を行き来することもある。外出傾向の強い入居者には、外出したい思いや、気持ちなどの理由の把握に努め、一緒に庭内を廻るようにしている。		

認知症老人グループホームうらら

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策  火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	隣接する同法人事業所との定期的な合同避難訓練やホーム独自の避難訓練を実施している。夜間時を想定した、避難訓練も実施している。訓練後はカンファレンスにより、課題を出し合い改善に努めている他、災害時の役割分担と流れが明記されたものを掲示しており、有事の際に備えている。今年度、スプリンクラーが設置され、さらに入居者の安全・安心に繋がっている。		
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による摂取カロリーや栄養分が計算された献立を作成している他、糖尿病を持つ入居者には塩分やカロリーを控えたり、嚥下が悪い入居者には刻み食や粥等を提供している。入居者一人ひとりの食事や水分の摂取量を記録しており、適切な摂取量が取れるよう支援に努めている。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各棟のイメージカラーでカーテンやソファを統一しており、温かみのある家庭的な雰囲気づくりに努めている。季節毎の掲示物や入居者の作品展示や、花等の植物を置くことにより季節感を心がけている。家具等も入居者の動線に沿って配置を工夫したり、入居者が飼育している金魚の水槽等もあり和やかで居心地の良い共用空間となっている。共用空間には、不快な音や光、臭い等は感じられなかった。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室は、入居者各々が使い慣れた家具や思い出の品々が持込まれたものとなっており、仏壇を持ち込み、毎日お茶やご飯を供えている人や植物を育てたり人形を飾ったりする人もいる。また、必要に応じて冷蔵庫やテレビ等家電類の持ち込みも可能であり、ホームでは入居者がその人らしく居心地よく過ごせる暮らしを支援している。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。